

公務災害防止事業の推進

▶ 消防団員安全管理セミナー及び S-KYT(消防団危険予知訓練)研修を実施して ◀

宮城県消防学校

1. はじめに

東北地方の中心に位置する宮城県は、西部一帯に奥羽山脈が連なり、中央部には北上川、阿武隈川などの流域に広がる東北最大の沖積平野が穀倉地帯を形成し、東は太平洋に面しています。県内35市町村で人口は230万人、東京の北東約300kmに位置し、日本三景のひとつとして有名な松島をはじめとする観光地に恵まれています。

気候は比較的温暖で、県中央には東北自動車道が走り、東北唯一の国際拠点港湾である仙台塩釜港、国内外に定期便が運航されている仙台空港などのアクセス網が完備され、東北新幹線の仙台-東京間が最短1時間半という恵まれた環境にあります。

2. 消防団について

宮城県内の消防団については、令和元年10月1日現在、42消防団、488分団、男性消防団員18,602名、女性消防団員495名の計19,097名の構成となっており、各地域における火災防ぎよはもとより、台風や豪雨などの風水害さらには大規模地震まで様々な災害に対し、地域防災の中核として活動し、日頃から訓練を行うとともに、特別警戒活動など各種災害に備え活動を行っています。

3. 研修開催の経緯

県内消防団員の安全管理の重要性の認識、理解の習熟及び消防団活動時の危険の予知や対応について、消防基金の後援により、平成30年度は、消防団員専科教育警防科、幹部教育初級幹部科の2課程において「S-KYT研修」をそれぞれ1回、指揮幹部科分団指揮課程では「安全管理セミナー」を1回、令和元年度は、消防団員専科教育警防科、幹部教育初級幹部科で「S-KYT研修」をそれぞれ1回、指揮幹部科分団指揮課程で「安全管理セミナー」を1回開催し、消防団員活動に潜む危険への対応能力向上を図っています。

4. 研修の様子

本校消防団員教育では、各消防団の分団長をはじめ、部長、班長といった幹部団員、そして若手消防団員と年齢層も幅広く、多くの消防団員が受講しました。令和元年度の「S-KYT研修」、「安全管理セミナー」では、地元仙台出身の阿部講師、加藤講師をはじめ、多くの講師の方々により、消防団員活動における公務災害の発生状況、災害現場の特異性と不安全状態等における事例、消防団員活動の危険予知の知識、実技について分かりやすく講義を行っていただきました。

研修に参加された各団員は、当初はなかなか

か戸惑いがあった指さし呼称についても、皆が行っていくなかで、次第に大きな自信に満ちた呼称が教室内に響くようになり、和みながらも真剣な表情で研修に取り組んでいました。

また、研修を受講した団員の方々からは、「改めて安全管理の意識を高めることができた」、「今回の研修で学んだ指さし呼称を、戻ったら自分の消防団で是非やってみたい」、「今回の研修では、普段得られない知識を得ることができた」と多くの前向きな感想をいただき、大きな成果がみられた研修となりました。

5. 今後の取組について

本校では、今後も充実した消防団員教育を実施していくことを目指し、郷土愛、奉仕の精神を持つ消防団員が受講しやすい環境を維持しながら教育訓練を実施し、各種災害に対応できる専門知識と技能を習得させ、県内消防団員の活動能力の育成を図ってまいります。

最後になりますが、今回、本校における消防団員教育におきまして、各講師の皆様、消防団員等公務災害補償等共済基金の方々のご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

